

2024年度 第1四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2024年7月29日
日本ゼオン株式会社

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.8	高機能材料 P/L
P.9	高機能材料 営業利益差異
P.11	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.12	高機能樹脂事業：COPの状況
P.13	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.15	エラストマー素材 P/L
P.16	エラストマー素材 営業利益差異
P.18	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要
P.21	C/F概要
P.22	営業外損益、特別損益
P.24	2024年度 上期事業環境
P.25	2024年度 業績予想
P.26	2024年度 配当金予想
P.27	配当性向および総還元性向
P.29	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

※2024年度より、光学樹脂をシクロオレフィンポリマー(以降、COP)と記載します。

【総括】

- ◆ Q1連結実績は対前年同期、対前期ともに増収増益
- ◆ Q1連結実績を踏まえ2024年度上期業績予想を上方修正、下期は上期の反動等による業績鈍化を織り込み、2024年度通期業績予想は据え置く

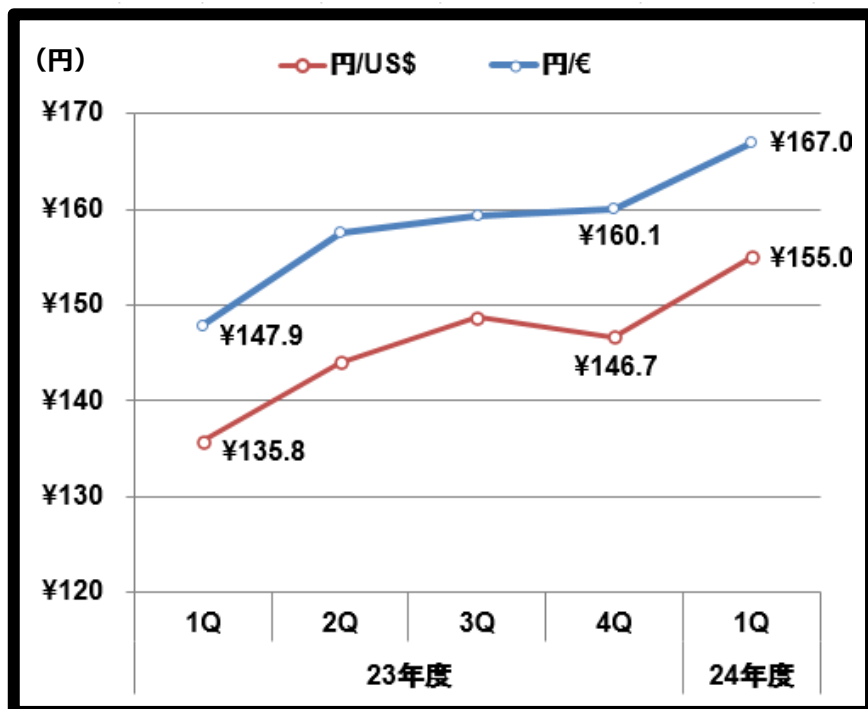
【高機能材料の概況】

- ◆ 高機能樹脂：モバイル端末向け需要の回復および能登半島地震後の生産再開で大型向け光学フィルムの出荷が増え、YoY、QoQともに増収増益
- ◆ 高機能ケミカル：電池材料のEV向け出荷伸び悩みと化学品特殊溶剤およびトナーの出荷増が入り組み、YoYは増収減益、QoQは減収増益

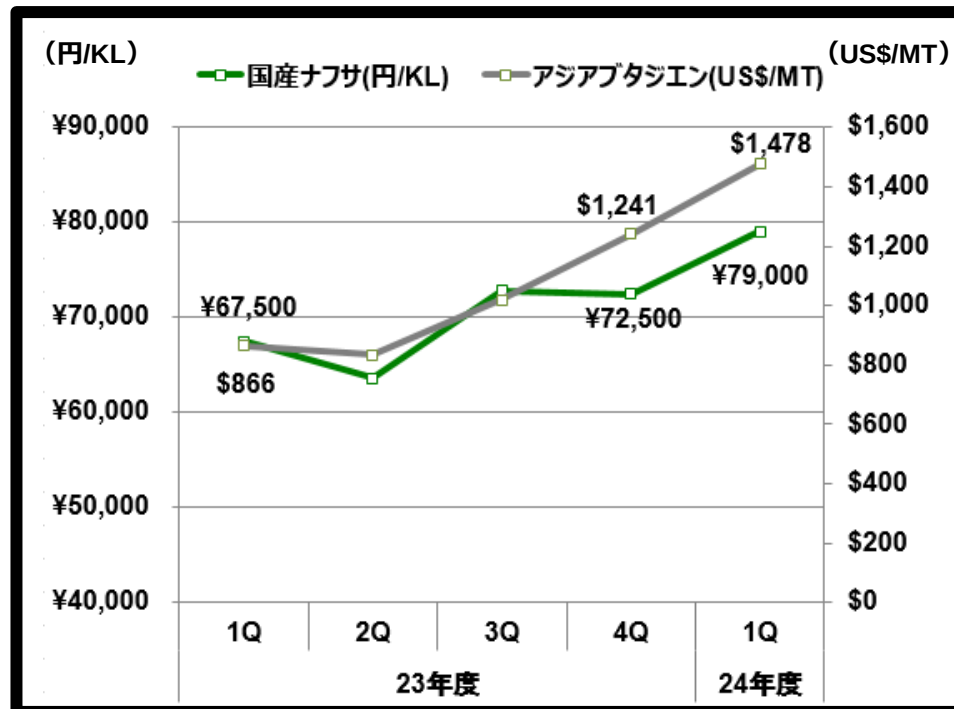
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 合成ゴムを中心に、YoY、QoQともに増収増益
- ◆ ラテックスおよび化成品は緩やかに回復の基調

【為替推移】



【主原料推移】



		2023年度 Q1	2023年度 Q4	2024年度 Q1	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥135.8	¥146.7	¥155.0	+14%	+6%
	円/€	¥147.9	¥160.1	¥167.0	+13%	+4%
主原料	国産ナフサ/KL	¥67,500	¥72,500	¥79,000	+17%	+9%
	アジアブタジエン/MT	\$866	\$1,241	\$1,478	+71%	+19%

※国産ナフサ：2023年度Q1及びQ4は確報値、2024年度Q1は当社見込値

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.8	高機能材料 P/L
P.9	高機能材料 営業利益差異
P.11	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.12	高機能樹脂事業：COPの状況
P.13	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.15	エラストマー素材 P/L
P.16	エラストマー素材 営業利益差異
P.18	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要
P.21	C/F概要
P.22	営業外損益、特別損益
P.24	2024年度 上期事業環境
P.25	2024年度 業績予想
P.26	2024年度 配当金予想
P.27	配当性向および総還元性向
P.29	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

（単位：億円）

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2023年度 Q1	2023年度 Q4	2024年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
売上高	919	985	1,061	+142	+76
営業利益	61	45	90	+29	+45
経常利益	83	70	122	+39	+52
当期純利益	58	102	82	+24	▲ 20

■ 前年同期比 : 売上高 +142億円、営業利益 +29億円

■ 前期比 : 売上高 +76億円、営業利益 +45億円

注記：海外関係会社の2024年1～3月実績がQ1連結決算に反映されています。
2024年度より東材（広州）国際貿易有限公司が連結対象となりました。

（単位：億円）

【売上高】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2023年度 Q1	2023年度 Q4	2024年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
高機能材料	252	283	303	+51	+20
エラストマー素材	522	556	602	+80	+46
その他の事業、消去等	145	146	155	+10	+10
売上高合計	919	985	1,061	+142	+76

【営業利益】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2023年度 Q1	2023年度 Q4	2024年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
高機能材料	40	30	53	+13	+22
エラストマー素材	25	5	38	+13	+33
その他の事業、消去等	▲ 3	10	▲ 0	+3	▲ 10
営業利益合計	61	45	90	+29	+45

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.8	高機能材料 P/L
P.9	高機能材料 営業利益差異
P.11	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.12	高機能樹脂事業：COPの状況
P.13	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.15	エラストマー素材 P/L
P.16	エラストマー素材 営業利益差異
P.18	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要
P.21	C/F概要
P.22	営業外損益、特別損益
P.24	2024年度 上期事業環境
P.25	2024年度 業績予想
P.26	2024年度 配当金予想
P.27	配当性向および総還元性向
P.29	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

(単位：億円)	2023年度 Q1	2023年度 Q4	2024年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	252	283	303	51	20 %	20	7 %
※ 高機能樹脂	156	158	199	43	28 %	41	26 %
高機能ケミカル	84	114	94	10	12 %	▲ 20	▲ 18 %
メディカル他	12	10	10	▲ 2	▲ 14 %	▲ 0	▲ 2 %
営業利益	40	30	53	13	32 %	22	73 %
営業利益率	16%	11%	17%	※ 高機能樹脂 : COP、光学フィルム 高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー			

■ 高機能樹脂：モバイル端末向け需要の回復および能登半島地震後の生産再開に伴う大型向け光学フィルムの出荷増により、YoY、QoQともに増収増益

■ 高機能ケミカル：電池材料は日本ゼオン単体でYoY、QoQは増収増益となるも、海外関係会社はEV補助金政策の変更による出荷減の影響を受け、連結でYoYは増収減益、QoQは減収減益

化学品の特殊溶剤およびトナーの出荷増で、高機能ケミカル全体のQoQは増益

(単位：億円)

＋：光学フィルム 生産再開により
・歩留まり良化
・棚卸資産関連費用減

＋：光学フィルム 出荷量増
▲：COP/電池材料 出荷量減

▲0

▲2

+3

+25

▲4

▲：光学フィルム
出荷量増により
・販直費増
・販売活動費用増
等

23/Q4
30億円

+22

24/Q1
53億円

数量差

価格差

為替差

原価差

販管費差

(単位：億円)

+ : 光学フィルム/COP 出荷量増
▲ : 電池材料 出荷量減

▲ : 新規開発費用増 等

+17

▲8

+6

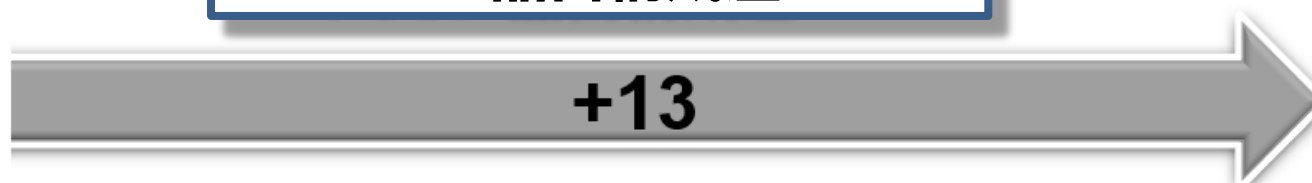
+4

▲7

+ : 光学フィルム 生産再開により
歩留まり良化

▲ : 合成香料 市況価格下落
▲ : COP 品目構成差

23/Q1
40億円



24/Q1
53億円

数量差

価格差

為替差

原価差

販管費差

	YoY	QoQ
EV向け	88%	95%
民生他向け	159%	141%
全体	100%	104%

■ EV向け

グローバルでのEV販売不振の影響により、YoY、QoQともに出荷量減

■ 民生他向け

モバイル端末向けは緩やかに回復、ESS用途向けの販売が伸び、YoY、QoQともに出荷量増

	YoY	QoQ
光学用途向け	168%	132%
医療その他向け	96%	73%
全体	111%	85%

■ 光学用途向け

スマホ向け、プリンター向けともに復調傾向に加え、まとめ出荷等も重なり、YoY、QoQともに出荷量増

■ 医療その他向け

出荷の端境期となり、YoY・QoQともに出荷量減

	YoY	QoQ
中小型向け	112%	133%
大型向け	129%	168%
全体	125%	161%

■ 中小型向け

スマホ向け出荷前倒しおよびタブレット向け堅調によりYoY、QoQともに出荷量増

■ 大型向け

需要堅調に加え、能登半島地震からの復旧および23年稼働新ラインの稼働向上により、YoY、QoQともに出荷量増

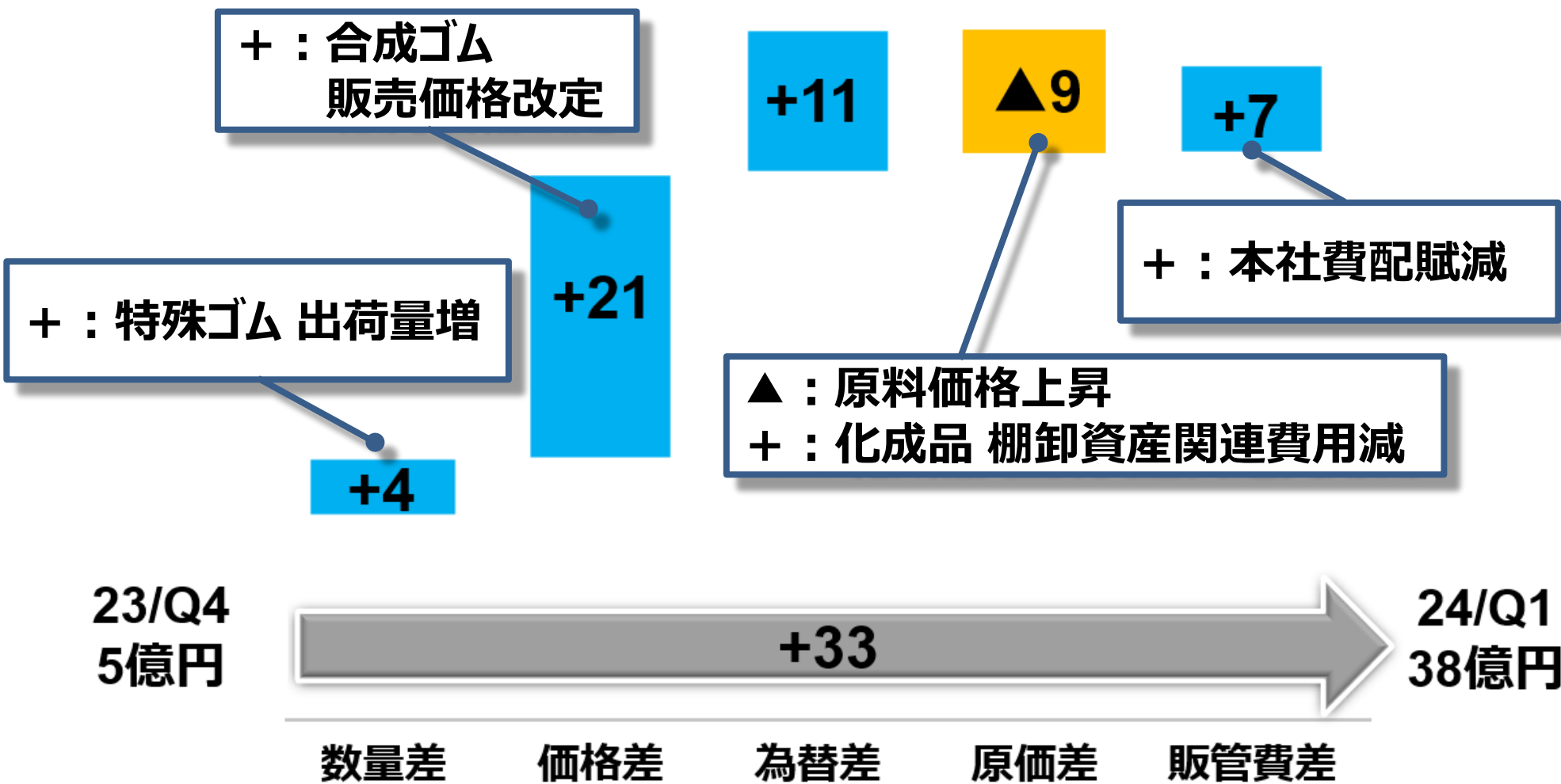
P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.8	高機能材料 P/L
P.9	高機能材料 営業利益差異
P.11	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.12	高機能樹脂事業：COPの状況
P.13	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.15	エラストマー素材 P/L
P.16	エラストマー素材 営業利益差異
P.18	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要
P.21	C/F概要
P.22	営業外損益、特別損益
P.24	2024年度 上期事業環境
P.25	2024年度 業績予想
P.26	2024年度 配当金予想
P.27	配当性向および総還元性向
P.29	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

(単位：億円)	2023年度 Q1	2023年度 Q4	2024年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (23/Q1=100)	100	116	112	12 pt	12 %	▲ 4 pt	▲ 3 %
合成ゴム	100	118	110	10 pt	10 %	▲ 8 pt	▲ 7 %
ラテックス	100	118	136	36 pt	36 %	19 pt	16 %
化成品	100	108	104	4 pt	4 %	▲ 4 pt	▲ 4 %
売上高	522	556	602	80	15 %	46	8 %
合成ゴム	405	412	455	50	12 %	43	10 %
ラテックス	27	30	34	7	27 %	3	11 %
化成品	79	99	102	23	29 %	3	4 %
その他・消去	11	15	12	0	4 %	▲ 3	▲ 21 %
営業利益	25	5	38	13	53 %	33	701 %
営業利益率	5%	1%	6%				

- 合成ゴムを中心に、YoY、QoQともに増収増益
- ラテックスおよび化成品は緩やかに回復の基調

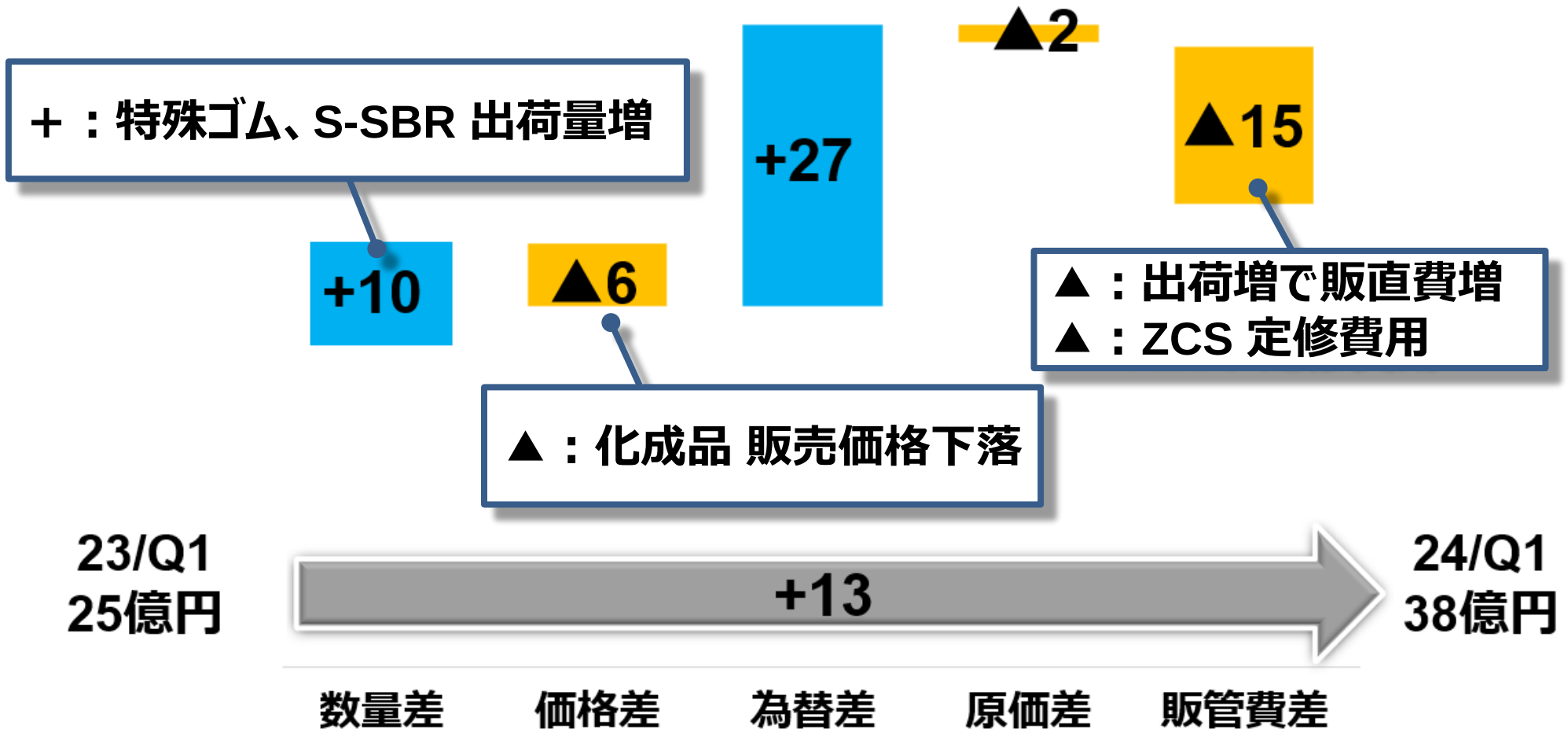
エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)



エラストマー素材：合成ゴムの状況（製造拠点出荷量） ZEON

	YoY	QoQ
特殊ゴム	100%	101%
汎用ゴム	114%	91%
全体	110%	93%

■ 特殊ゴム

自動車産業における一部生産停止の影響を受けたものの、需要は底堅く、YoY、QoQともに出荷量は堅調を維持

■ 汎用ゴム

需要に力強さはないものの、S-SBRはYoY、QoQともに出荷量増
徳山工場定期修繕を控えた出荷調整に入り、全体でQoQは出荷量減

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.8	高機能材料 P/L
P.9	高機能材料 営業利益差異
P.11	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.12	高機能樹脂事業：COPの状況
P.13	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.15	エラストマー素材 P/L
P.16	エラストマー素材 営業利益差異
P.18	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要
P.21	C/F概要
P.22	営業外損益、特別損益
P.24	2024年度 上期事業環境
P.25	2024年度 業績予想
P.26	2024年度 配当金予想
P.27	配当性向および総還元性向
P.29	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

総資産5,602億円（+280）

【流動資産】 +267億円

- ◆現預金 +7億円
- ◆売掛債権 +68億円
- ◆未収入金 +38億円
- ◆棚卸資産 +61億円

流動資産
3,277
(+267)

固定資産
2,326
(+13)

【固定資産】 +13億円

- ◆有形固定資産 +27億円
- ◆投資有価証券 ▲10億円

【流動負債】 +232億円

- ◆買入債務 +82億円
- ◆コマーシャルペーパー +170億円

流動負債
1,668
(+232)

固定負債 229 (▲21)

純資産
3,706
(+69)

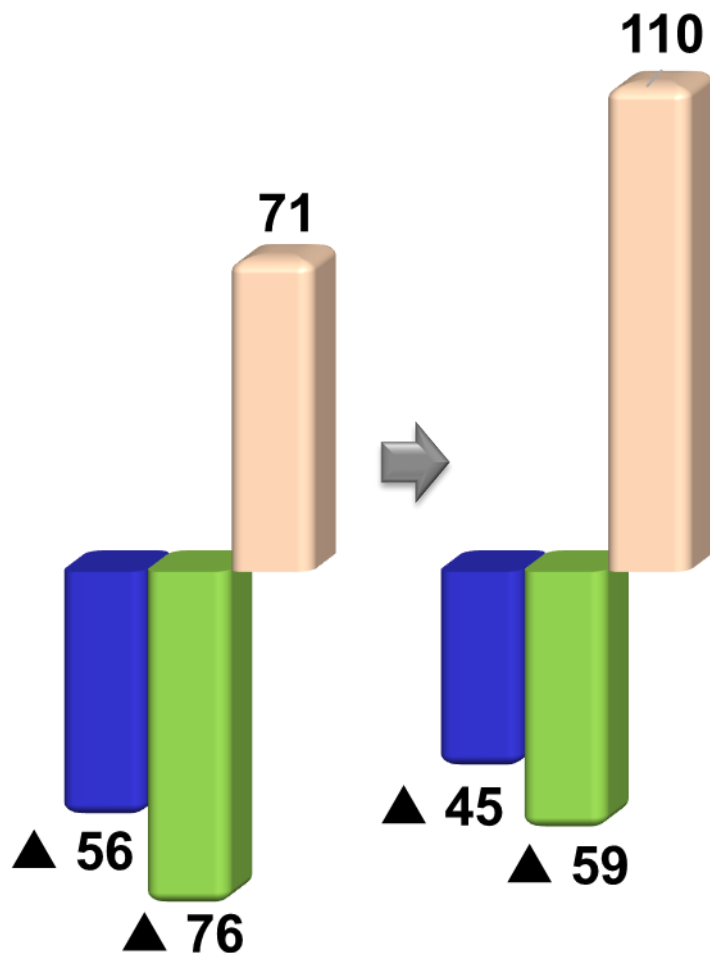
【純資産】 +69億円

- ◆自己資本比率 65.9% (▲2.2)
- ◆D/Eレシオ 0.07 (+0.05)

(単位：億円)

2023年度Q1

2024年度Q1



■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

(単位：億円)

	2023年度Q1	2024年度Q1
営業CF	▲ 56	▲ 45
投資CF	▲ 76	▲ 59
フリーCF	▲ 132	▲ 104
財務CF	71	110
CF	▲ 61	6

【営業CF】	+11億円
◆ 税前利益	+30億円
◆ 評価処分損	+13億円
◆ 運転資金	+16億円
◆ 税金	▲ 37億円
◆ その他	▲ 11億円

【財務CF】	+39億円
◆ 資金調達	+60億円
◆ 配当金	▲ 15億円
◆ その他	▲ 6億円

(単位：億円)

【営業外損益】	2023年度 Q1	2024年度 Q1	YoY 増減
受取利息・配当金	11	12	+1
為替差損益	13	21	+8
支払利息	▲ 0	▲ 0	-
休止資産固定費	▲ 1	▲ 1	0
貸倒引当金繰入額	▲ 0	▲ 2	▲ 2
その他	▲ 1	2	0
営業外損益合計	22	32	+10

【特別損益】	2023年度 Q1	2024年度 Q1	YoY 増減
固定資産売却損益	0	0	-
投資有価証券売却損益	0	2	+1
投資有価証券評価損益	▲ 0	▲ 7	▲ 7
固定資産処分損	▲ 0	▲ 0	-
減損損失	▲ 3	▲ 5	▲ 2
出資金評価損	0	▲ 1	▲ 1
その他	0	▲ 0	-
特別損益合計	▲ 4	▲ 12	▲ 9

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.8	高機能材料 P/L
P.9	高機能材料 営業利益差異
P.11	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.12	高機能樹脂事業：COPの状況
P.13	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.15	エラストマー素材 P/L
P.16	エラストマー素材 営業利益差異
P.18	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要
P.21	C/F概要
P.22	営業外損益、特別損益
P.24	2024年度 上期事業環境
P.25	2024年度 業績予想
P.26	2024年度 配当金予想
P.27	配当性向および総還元性向
P.29	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

		2024年度 上期着地予想	
(億円)		売上 予想	営利 予想
		2,100	150
		当初上期業績予想(24/4/25時点)に対する変化	
		当初上期業績予想に対し、売上高+120 営業利益+40 為替は当初予想US\$145、€155から、円安の着地となる見込	
高機能 材料		60Q	90
		COP：半導体市場の回復および前倒し出荷の影響により、 売上増、営利増 光学フィルム：大型フィルム需要堅調に加え、前倒し出荷の 影響により、 売上増、営利増 電池材料：EV市場低調の影響を受け、 売上減、営利減	
エラストマー 素材		1,200	60
		合成ゴム：原料価格上昇による販売価格改定により、 売上増 特殊ゴム、S-SBRの需要堅調で、 営利増 ラテックス：手袋需給が緩やかに回復、原料価格上昇による 販売価格改定により、 売上増、営利増 化成品：粘着テープ向け需給が緩やかに回復し、 売上増 原料価格上昇分すべてを販売価格に転嫁できず、 営利減	

※2024年度上期着地予想は、2024年7月29日時点の当社見立て

(単位：億円)

【売上高】

	当初業績予想 (24/4/25時点)			修正業績予想 (24/7/29時点)			上期 差異	下期 差異	年間 差異
	上期	下期	年間	上期	下期	年間			
高機能材料	570	585	1,155	600	505	1,105	+30	▲ 80	▲ 50
エラストマー素材	1,115	1,100	2,215	1,200	1,050	2,250	+85	▲ 50	+35
その他の事業、消去等	295	305	600	300	315	615	+5	+10	+15
売上高合計	1,980	1,990	3,970	2,100	1,870	3,970	+120	▲ 120	0

【営業利益】

	当初業績予想 (24/4/25時点)			修正業績予想 (24/7/29時点)			上期差異	下期差異	年間差異
	上期	下期	年間	上期	下期	年間			
高機能材料	55	100	155	90	80	170	+35	▲ 20	+15
エラストマー素材	50	50	100	60	30	90	+10	▲ 20	▲ 10
その他の事業、消去等	5	5	10	0	5	5	▲ 5	0	▲ 5
営業利益合計	110	155	265	150	115	265	+40	▲ 40	0

■ 上期業績予想を売上高2,100億円、営業利益150億円に上方修正

2Q予想前提：US\$=161円、€=172円、国産ナフサ=¥78,500、アジアブタジエン=US\$1,450

■ 通期業績予想を売上高3,970億円、営業利益265億円に据え置く

下期予想前提：US\$=155円、€=165円、国産ナフサ=¥76,000、アジアブタジエン=US\$1,100

下期業績予想は精査を実施したうえで、通期業績予想を据え置き

【配当金予想、単位：円】

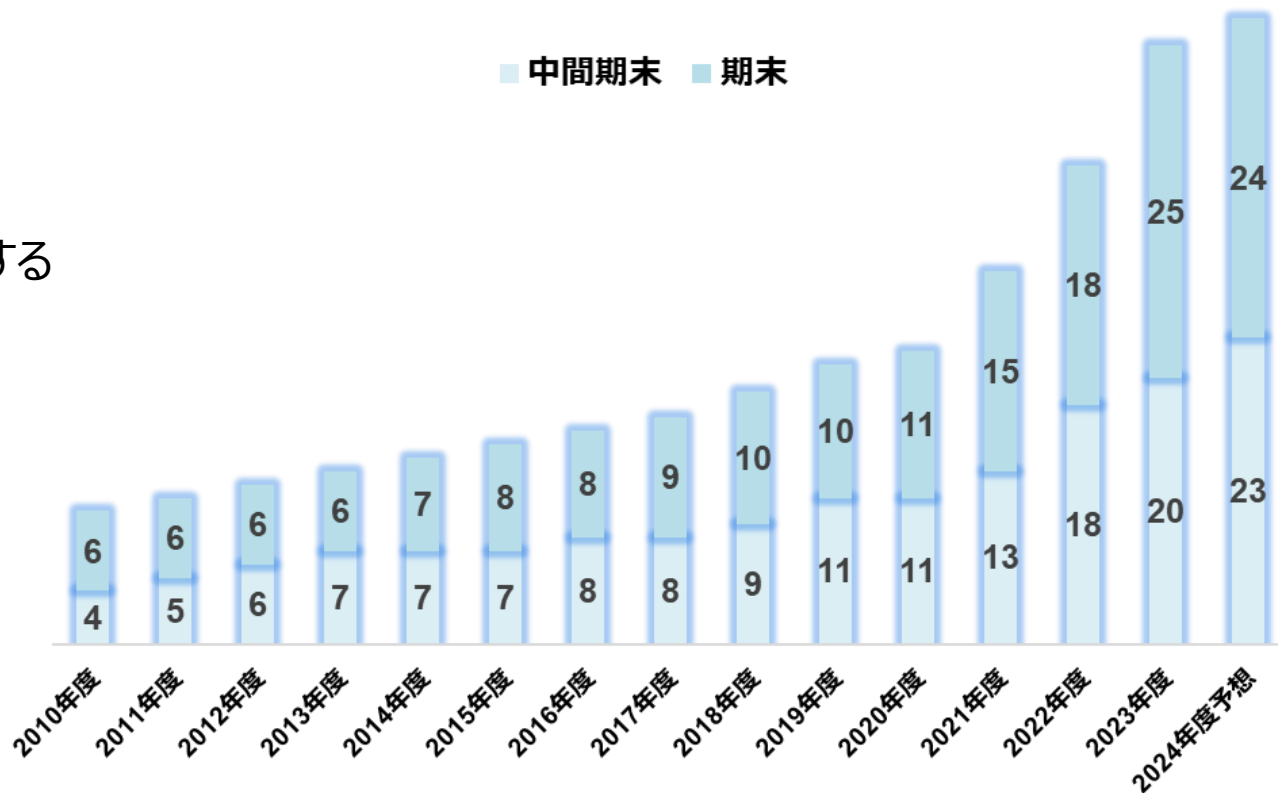
株主還元方針

- 配当性向30%を最低水準とする
- 累進配当を維持
- 自己株式取得（計画）

24－26年度で300億円

24年度 100億円（決定済）

25-26年度 200億円

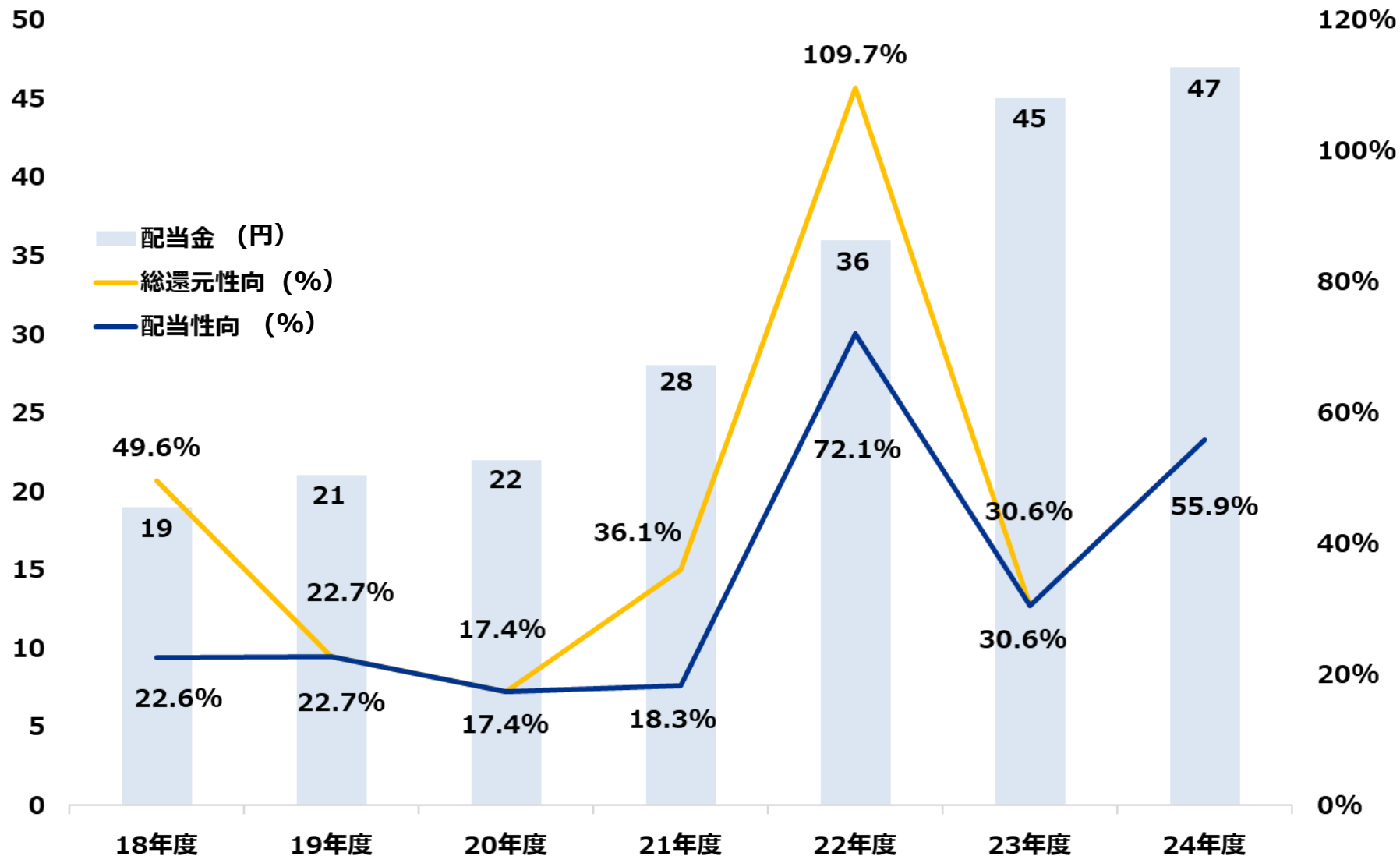


■ 2024年度の配当金は年間47円を予想（対前年度+2円）

■ 年間配当額は2010年度から15期連続増配予想

(単位：円)

(単位：%)



P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.8	高機能材料 P/L
P.9	高機能材料 営業利益差異
P.11	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.12	高機能樹脂事業：COPの状況
P.13	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.15	エラストマー素材 P/L
P.16	エラストマー素材 営業利益差異
P.18	エラストマー素材：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要
P.21	C/F概要
P.22	営業外損益、特別損益
P.24	2024年度 上期事業環境
P.25	2024年度 業績予想
P.26	2024年度 配当金予想
P.27	配当性向および総還元性向
P.29	資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

中期経営計画第2フェーズ進捗の公表後、株価は軟調に推移。当社は投資家との対話を通じて認識した、経営陣とのギャップを埋める為、事業戦略・財務戦略についての情報開示拡充と一部方針を再検討中 ⇒2Q決算説明会にてアップデートを予定

【経営陣と投資家における主なギャップ（当社認識）】

- 電池材料、COP事業に対する成長期待
- ポートフォリオ組み換えの時間軸
- 資本収益性改善の可能性

【ギャップを埋めるための検討事項（開示情報の拡充、一部方針の再考）】

- 電池材料、COP事業の成長性・収益性のガイダンス
- ポートフォリオ組み換えのタイムライン、その過程で取り組む収益性確保に向けた施策
- その他、事業戦略・財務戦略に関する追加開示、一部方針の再考

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

2024年度 Q2決算発表	2024年10月28日を予定
--------------------------	-----------------------

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

以 上

統合報告書
2023年度版は[こちら](#)

アップサイド

エンドマーケット需要回復の早期化

為替の円安化

市況回復の早期化

円安ドル高

景気回復

円安ユーロ高

ダウンサイド

エンドマーケット需要低迷の長期化

為替の円高化

市況回復の長期化

円高ドル安

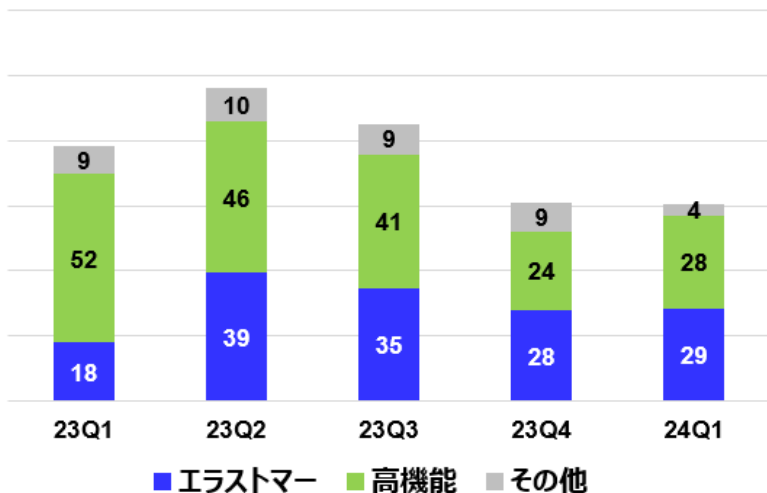
景気悪化

円高ユーロ安

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

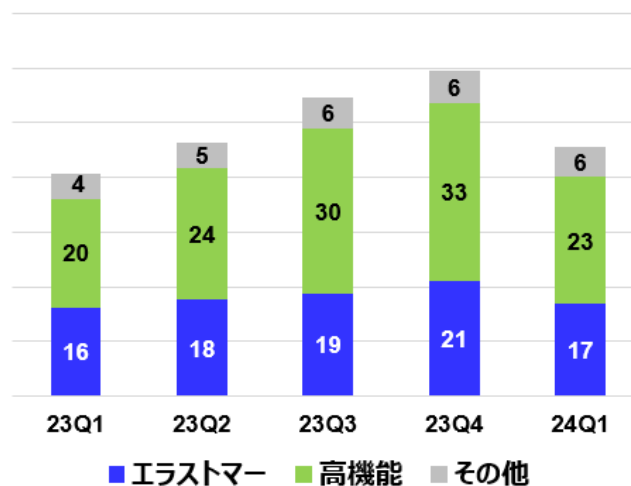
【資本的支出】



23年度実績
322億円

24年度予想
380億円

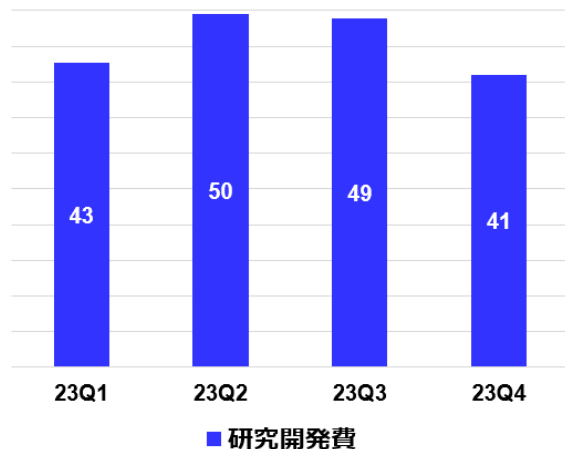
【減価償却費】



23年度実績
202億円

24年度予想
215億円

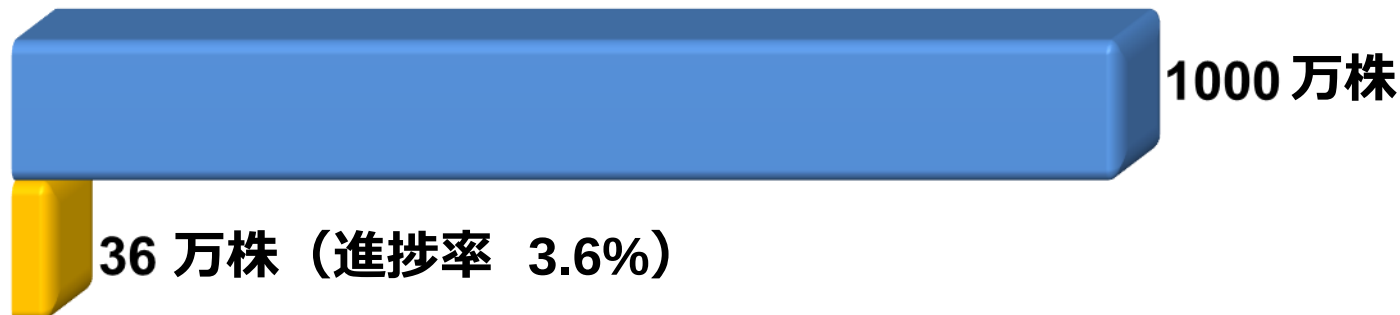
【研究開発費】



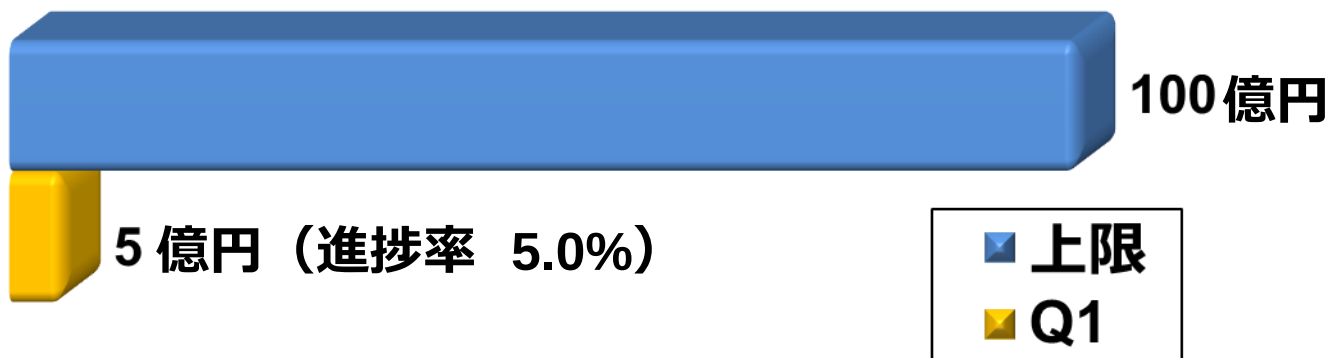
23年度実績
182億円

24年度予想
188億円

株式数



取得金額



- 1,000万株/100億円を上限に、自己株式の取得を実施中
- 取得後の全株式について消却を決定済